

同志社大学公開シンポジウム

リベラリズムと

ポストリベラリズムの対話

ーパトリック・デニン氏を迎えて



基調講演

パトリック・デニン

ノートルダム大学教授



2026年
6月5日 金
13時00分-14時30分

(受付開始12時00分)

使用言語

日英同時通訳

入場料

無料

開催場所

同志社大学今出川校地
寒梅館地下ハーディーホール



アクセス

【パネルディスカッション登壇者】



三牧 聖子

同志社大学

グローバル・スタディーズ研究科教授



吉田 徹

同志社大学

政策学部教授

【コーディネーター】



飯田 健

同志社大学

法学部教授

冷戦終焉後、個人の権利、自由市場経済、開放的な国境等を掲げるリベラリズムは、普遍的な政治秩序として広く受容されてきた。しかし近年、経済格差の拡大、地域共同体の衰退、宗教や家族の弱体化、文化的分断や政治不信を背景に、その前提を問い直す動きが、欧米を震源地として世界各地で強まっている。

こうした動向の中で注目を集めてきたのが、政治思想家パトリック・J・デニン氏である。デニン氏は、『リベラリズムはなぜ失敗したのか』において、「リベラリズムは未完の理想にとどまったがゆえにではなく、むしろ、その理念を実現したがゆえに失敗した」と論じ、個人の自由を最優先するリベラリズムが、共同体や公共精神を衰退させたとの問題を指摘した。近年は、宗教・家族・地域共同体を重視するポストリベラルな政治秩序の可能性を提起している。

今日の世界に目を向ければ、グローバリズムへの反発や国家主権の再評価を背景に、欧米では、自由主義秩序をめぐる対立が一層鮮明になっている。他方、過日のハンガリーの政変に示されるように、ポストリベラルの潮流もまた、新たな局面を迎えている。これらの世界的な動向と、日本の未来は決して無縁ではない。

本シンポジウムは、デニン氏との対話を通じ、自由と共同体、個人と公共善をめぐる問いを多角的に掘り下げる。そして、自由主義秩序の未来、ポストリベラル時代における政治共同体のあり方を展望したい。

主催：同志社大学 共催：国際交流基金

お問い合わせ：同志社大学国際課



ji-kksai@mail.doshisha.ac.jp



075-251-3260

※合理的配慮が必要な方は5月29日（金）までにご連絡ください。ご要望内容を検討のうえ、できる限りの対応をさせていただきます。